

経済史概論Ⅲ (Modern Economic HistoryⅢ)

科目ナンバリング ECH-103
選択必修 2単位

野澤 丈二

1. 授業の概要(ねらい)

TAP(帝京アジア交流プログラム)留学生向けの科目で、原則として英語を使用言語とします。
この授業では、主に15世紀から20世紀までを対象として、国と国・地域と地域などの相互の繋がりと影響に主眼を置いて、経済史をより国際的な視点から学びます。経済の三要素といわれるヒト・モノ・カネに加えて、そのほかさまざまな要因(制度・情報・技術・宗教・教育・地理・環境など)も考慮に入れながら、今日のグローバルな世界の成り立ちについて学びます。

2. 授業の到達目標

- ① 経済史とはなにかを説明できる。
- ② 経済的に不均衡な世界の成り立ちを、その歴史的背景から説明できる。
- ③ 過去や歴史を知ることによって、現在生きている状況を相対化し、複眼的な思考を養う。

3. 成績評価の方法および基準

平常点:出席、授業への積極的な参加、授業内課題(30%)、期末試験(70%)
課題や試験の内容については、授業の様子を見ただけで判断します。

4. 教科書・参考文献

参考文献
・Robert C. Allen 『Global Economic History : A Very Short Introduction』 (Oxford UP, 2011)

5. 準備学習の内容

授業で指定する予習資料を事前に必ず読んでくること。
現在、「クローハール」な視点から書かれた歴史書が、一般向けにも多く刊行されています。書店に立ち寄る機会があれば、ぜひ関連書棚を眺めてみてください。もちろんネット上で閲覧できる書評なども活用してください。

6. その他履修上の注意事項

7. 授業内容

- | | |
|--------|--------------------|
| 【第1回】 | イントロダクション |
| 【第2回】 | 歴史学とはなにか、経済史とはなにか? |
| 【第3回】 | 授業内課題① |
| 【第4回】 | 西欧の海外拡張 |
| 【第5回】 | 大いなる分岐 |
| 【第6回】 | 産業革命 |
| 【第7回】 | 授業内課題② |
| 【第8回】 | ドイツとアメリカ |
| 【第9回】 | インドの挫折 |
| 【第10回】 | 南北アメリカの比較 |
| 【第11回】 | 授業内課題③ |
| 【第12回】 | アフリカ |
| 【第13回】 | 日本のキャッチアップ |
| 【第14回】 | ソ連と東アジア |
| 【第15回】 | まとめと試験 |